

第6学年 学級活動（2） 学習指導案

1 学 年 6年

2 本時の学習


(1) 目 標

- 実話の映像教材を使い、LINE におけるトラブルの回避策を考え、実生活に生かすことができるようにする。

(2) 使用した映像教材

「たった一言のちがいが・・・」(NHK for school スマホ・リアル・ストーリー)

(3) 展 開

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホの使い方を振り返り、LINE 等の無料通話アプリの良い点や問題点を話し合う。 ○ 課題をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級内の LINE に関する友達関係のトラブルなどがあれば、想起させる。 	
LINE による友達とのトラブルの原因について考えよう。			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実話の映像教材を視聴する。 <div style="margin-top: 20px;"> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">「よくなかった」??? どういう意味?</p> <p style="margin-top: 20px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">言い方が きついなあ・・・</p> <p style="margin-top: 20px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">このスタンプ、何? (笑)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「3 人の女の子が家に遊びに行く場面」で一時停止して、児童にこれからどうなるか発表させる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童の反応を注視し、つぶやきなどを拾い上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴したことをもとに、問題点について気付くことができたか。

- 視聴後、トラブルの原因について考え、付箋に書く。



- 各々が持ち寄った付箋を見ながら、仲間はずれの原因についてグループで意見を交流し、キーワードごとに分類する。



- トラブルの回避策についてグループで話し合う。

伝わりにくいことは、直接、話した方がいいと思う。

言葉を伝えるときは、よく考えて使わないといけないね。

- 話し合ったことについて全体で交流する。

- 一人で考える時間、グループで話し合う時間を十分に設ける。
- 実生活の場合とLINEの場合とのコミュニケーションの違いについて考えるように助言する。

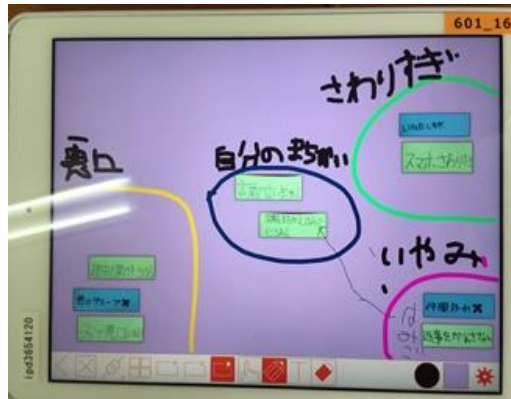
スタンプが誤解されるよね。

ラインをやりすぎだね。

「よくなかった」は、「よかったね。」の意味だから、?がいるね。

・トラブルの原因を自分のこととして考えることができたか。

・相手の立場に立ってトラブルの原因を考えることができたか。



- タブレット端末上で分類してもよい。
- 自分ならどうするかを考えるようにする。また、言葉を受け取った相手の気持ちを考えて話し合うように助言する。

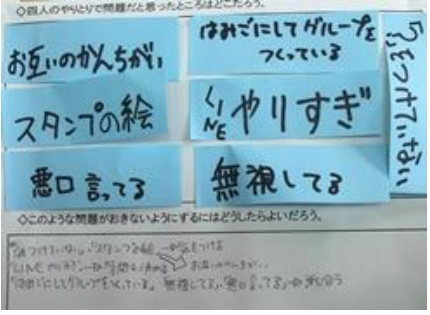
・トラブルの回避策を考えることができたか

時間を決めて送信すればいいね。



展

開

		<ul style="list-style-type: none"> ● 文字だけのコミュニケーションでは、正しく伝わらなかったり、誤って伝わってしまったたりするので「大切なことは直接伝える」ことも重要であることを確認する。 	
<p>ま と め</p>	<p>○ 本時の学習を振り返り、感想をワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習を実生活に生かすように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、実生活に生かそうとしているか。

ワークシート (例)

課題	6年 組
	名前 ()
<p>◇ 四人のやりとりで問題だと思ったところは、どこだろう。</p> <p>◇ このような問題がおきないようにするには、どうしたらよいらう。</p> <p>◇ 今日の学習を終えて考えたこと、感想を書こう。</p>	

この学習を通して

- ★ 活用した視聴教材は、主人公がLINEを通して、仲間はずれになるという事例。(主人公は、何が原因で仲間はずれになったかわからない。結局は、母に相談して仲間はずれの原因に気付く。) この授業では、ほとんどの児童が「言葉の表現の仕方」が原因であることを理解できていた。
- ★ 身近なできごとを題材にした視聴教材なので、児童は、うなづいたり、つぶやいたりして、真剣に視聴していた。指導者は、視聴している児童のつぶやきや表情などをしっかりと見ることが、この後の授業における支援の仕方や助言につながる。
- ★ 視聴教材の事例を他人事ではなく、自分事として考えることが、情報モラル教育の授業実践では大切である。十分に考える時間を設け、グループや全体で交流する中で、児童主体の学習を進めたい。また、「ネット上のコミュニケーション」と「実生活でのコミュニケーション」の違いに気付かせ、上手く情報を活用できるように助言する。